

009	From Editor
011	表紙の時計 / ウブロ「ビッグ・バン」ユニコイエローマジック
012	Editor's Choice!
018	H.モーター「エンデバー・トゥールビヨン」コンセプトタイガーアイ / オメガ「デ・ウィルトレゾア」スモールセコンド / ボーム&メルシェ「リビエラ」ベル&ロス「BR 05」スケルトン「ナイトラム」 / ロンジン「ロンジンシルバアロー」タグ・ホイヤー「カレラグリーン」スペシャルエディション / 世界は時計で回っている。
020	ヴァシユン「コンスタタン」アメリカン1921「ユニークピース」
022	1世紀の時を越えてアイコンの完全なる復元を目指す
022	ルイ・ヴィトン「タンブルカーブ GMT フライイング トゥールビヨン」 / 「タンブルムーン」フライイング トゥールビヨン / ポワソン・ド・ジュネーヴ「サファイアクリスタル」
024	高級時計の世界で確実に地歩を固めるルイ・ヴィトン
024	チューダー「ブラックベイセラミック」
026	セラミック製ケースで登場した初のマスタークロノメーター
028	ベル&ロス「BR 03」レッドレーダーセラミック / 航空の世界に誘う「フライト・イン」ストウルメント「ウォッチラダー」 / キャプテンクック「ハイテクセラミック」
030	ラドーを象徴するふたつの要素を統合した新作がデビュー
035	日本市場で再び展開を開始したルイ・モネ 偉大な時計師へのオマージュを根底に我が道を歩む
047	2021年ブランド別新作情報 パート2
048	人生の良きパートナーとなる 時計との出会いを願って

コロナ禍の影響で1年に1度の大規模な新作発表会で年間の新製品をお披露目する、という時計業界の慣習も崩れてしまった。そして多くのブランドが発売のタイミングに合わせて新作の情報を発信する傾向にある。ここでは4月に開催されたウォッチズ&ワンダーズ以降に発表された新製品のなかから13ブランドを取り上げ、その概要をみてみたい。

ブルガリ「マニフィカ」

グッチ「ハイウォッチメイキングコレクション」

049	ルイ・エラルム×アラン・シルベスタイン
050	オリス ムヘルシュタインエディション2021、アクイステイトアップサイクル、 オカバンゴエアレスキューリミテッドエディション、 ビッグ・クラウンプロパイロットレガフリートL.E.
052	ユンハンス ムマイスター シグネチャー ハンドワインドエディション160、 フォームAエディション160
053	ユンハンス ムマックスビルエディション60 セット
054	ケーニグ74 ムK74 キングクラフト、ムK74 カーボン、ムK74 キャリバー、ムK74 マリーナ
055	ノルケイン ムインディペンデンス21、ムインディペンデンス21 DLC スケルトン
056	フォルティス ムオフィシャル・コスモノートアマディ20
057	シチズン ムアテッサ HAKUTORI コラボレーションモデル
058	カシオ ムGMW-BB5500PPB、ムGM-2100N、ムGA-2200M
059	腕時計新着情報
063	第11期ウォッチコーディネーターおよび第6期上級ウォッチコーディネーター試験
064	ベル&ロス銀座ブティック
065	「ISHIDA新宿」—— リブランディングを図り、店舗リニューアルとともに店名を変更
066	インフォメーション
068	スイスの時計産業と日本を繋ぐ、スイス時計協会
069	【特別追悼企画】時計ジャーナリスト瀧澤広の世界

時計への愛は広く、深く、限りなく

過去10余年にわたって小誌に寄稿していただいた時計ジャーナリストの瀧澤広氏が去る5月27日に急逝された。今号と次号の2回にわたって氏の過去の記事の一部をテーマ別に再録し、時計をこよなく愛したジャーナリストの世界を改めて振り返ってみよう。今号では天文表示の時計とミニットリピーターやグランソヌリなどの鳴り物に関する記事を再編集した。

ヴァシユロン・コンスタンタン アメリカン 1921 ユニークピース

1世紀の時を越えてアイコンの完全なる復元を目指す

ヴァシユロン・コンスタンタンは100年前の腕時計を修復ではなく、「再現」という試みに挑戦した。それは現代の技術に頼ることなく、当時の製法に出来る限り忠実であることが基本であった。完成したこのユニークピースは年内には日本を訪れる予定だ。



左は100周年を記念して1点製作された「アメリカン 1921 ユニークピース」。右は1921年に作られたオリジナルの「アメリカン 1921」。ヴァシユロン・コンスタンタンのプライベート・コレクションに収められるオリジナル・モデルを忠実に復元し、100年を経て双子が誕生した。直径31.50mm×厚さ8.75mmの18KYG(3N)のケースに、直径24.81mm(11リーニュ)×厚さ4.31mmの手巻きムーブメント(16石、毎時1万8000振動、パワーリザーブ約30時間。部品点数115/オリジナルは「11リーニュ・ヌーヴォー・キャリバー」と記され、ユニークピースではCal.1921と名づけられた)を搭載する。

1921年にヴァシユロン・コンスタンタンは24個のクッション型ケースの腕時計を主にアメリカ市場に向けて発売した。文字盤を左方向に45度傾けて取り付け、12時位置にリュウズを、6時位置にスモールセコンドが置かれ、エナメルの文字盤にはブレゲ数字のインデックスを記し、ブレゲ針が組み合わされた。第一次世界大戦が終わり、男性のための腕時計がようやく普及し始めた頃であり、ヴァシユロン・コンスタンタンは腕時計のケースはクッション型が適している、と考えたという。一方、ムーブメントは懐中時計用の小型のものが搭載された。

この時計を愛用したひとりが、アメリカでラジオを通して初めて説教を行い、人種差別に反対するリベラルなプロテスタントの牧師として知られたサミュエル・パークス・キャッドマンだった。彼が1928年にスイスでふたつを購入したという記録が残り、そのうちのひとつが現在はヴァシユロン・コンスタンタンのアーカイブに保存される。彼にとって

は説経台に置いた腕でさり気なく時刻を見るには、傾いた文字盤が都合よかったともいわれる。

ヴァシユロン・コンスタンタンは2008年以降、このモデルを「アメリカン 1921」と名づけてヒストリック・コレクションで展開してきた。ケースはオリジナルの31・5mmよりも大型の40mmまたは36・5mmがあり、文字盤は右方向に45度傾けてケースの右上の角に12時のインデックスが記される。ムーブメントは現行の手巻きのCal.4400ASを搭載し、スモールセコンドは3時位置に置かれる。ところで今年には「アメリカン 1921」の発売から100周年目にあたる。そこでヴァシユロン・コンスタンタンはオリジナルの完全な復元に挑戦した。これには前述のキャッドマン牧師が所有した1点アーカイブに保存されていたことが幸いした。作業はまずこの時計を分解することから始まった。11リーニュのムーブメントは地板とブリッジ以外の香箱や歯車類、テンプ、ヒゲゼンマイ、脱進機

チューダー ヶブラックベイ セラミック

セラミック製ケースで登場した初のマスタークロノメーター

2021年のチューダーの新作はゴールドやシルバーをケースに採用したモデルが目にとまったが、次いでセラミックが登場した。しかも1万5000ガウスの高い耐磁性と日差5秒以内の精度を保証する「マスタークロノメーター」であり、実用時計としての進化を示した。



ジュネーブの自社工房内にマスター クロノメーターの検査設備が整えられた。上の写真の右は防水性能、左は6姿勢での精度誤差、下の右は1万5000ガウスの耐磁性、左は約70時間のパワーリザーブの検査。

スイスの時計業界に「マスタークロノメーター」という言葉が登場したのは2015年であった。これはオメガが主導してスイス連邦計量認定局(METAS: Federal Institute of Metrology)が規定

した認証であり、COSC認定クロノメーターのムーブメントを搭載するスイス・メイドであることを前提に、定められた検査に合格した高い耐磁性と精度をもつ時計に与えられる。オメガは2015年に「グローバルマスター」で初のマスタークロノメーター認定を受け、今日ではコアクシヤル・ムーブメントを搭載する数多くのモデルに広がっている。

マスタークロノメーター認定を受けるための検査には8項目がある。

① COSC 認定クロノメーター・ムーブメントを2つの姿勢で1万5000ガウスの磁場に晒す。

② 時計完成品を1万5000ガウスの磁場に晒す。

③ 1万5000ガウスの磁場に晒した24

時間後の日差と、磁気を抜いて24時間後の日差の平均誤差を調べる。

④ 4日間に6姿勢、ふたつの温度で1万5000ガウスに晒す。

⑤ 検査する時計が定めるパワーリザーブの検査。

⑥ 6姿勢の精度誤差。

⑦ 異なるパワーリザーブ残量(100%と33%)の精度誤差。

⑧ 検査する時計が表明する防水性の検査。

ところでマスタークロノメーター認定はすべてのスイス・メイドの時計を対象とするものだが、実際には1万5000ガウスの耐磁性を確保することが難関でオメガ以外のメーカーに普及するには至っていない。しかし今年にはチューダーが初めて名乗りを上げた。

チューダー初のマスタークロノメーターとなった「ブラックベイセラミック」はケースとベゼル・インサートに耐傷性にすぐれたブラック・セラミックを採用する。2019年の「オンリーウォ

ベル&ロス「BR 03 レッドレーダーセラミック」

航空の世界へと誘う「フライト・インストゥルメントウルメント」ウォッチ

ベル&ロスから「レーダー」の第3弾目が発売された。航空機のcockpit・パネルのレーダーさながらに、レッド・サファイア・クリスタルの下で2機の飛行機が時刻を刻む。手首を見る度にパイロットの世界へと誘われることだろう。



ムーブメントの上に置かれた同心の2層のディスクが回転して時分を示す。つまり大きなディスクには旅客機が描かれ、12時間で1回転し、内側にある小さなディスクには戦闘機が描かれ、60分で1回転する。これらの2機の左の翼の先端が赤のサファイア・クリスタルの風防の内側に印刷された時分の目盛りを指し、時刻を読み取る。また長い赤の針が60秒で1回転し、秒を示す。

一昨年にパリ16区のコペルニク通りに

あるベル&ロスの本社を訪れた。19世紀の館を改装したオフィスはエントランスに入るとまず目に飛び込んでくるのが、アメリカ軍の戦闘機のcockpit。そしてクリエティブ・ディレクターのブルノ・ベラミッシュ氏のスタジオの棚にはcockpit・パネルをはじめ軍用の計器、パイロットの装備品が所狭しと並んでいた。今年5月に東京・銀座にオープンした日本初のブティックも飛行機や空港をテーマにデザインされたインテリアが特徴であり、これらを見ると自ずとベル&ロスが描き出そうとする世界が浮かびあがってくる。

ベル&ロスの原点はミリタリー・ウォッチやパイロット・ウォッチの機能性と視認性にあるが、それをベラミッシュ氏の感性によって無骨さを感じさせないスタイリッシュなデザインに落とし込んでいる。ミリタリー・デザインとインダストリアル・デザインの融合であり、「パリエスプリ」の洒落っ気とも言えるかも

しれない。

今日のベル&ロスのアイコンであるスクエア・ケースにラウンドの文字盤を組み合わせた「BR 01」や「BR 03」はその好例だろう。cockpitの計器に着想を得ているが、単にcockpit・パネルから抜け出しただけではない、手首にあつて違和感のない整然とした機能美を感じさせる。「BR 01」が2005年のパゼル・フェアでセンセーショナルなデビューを飾ったことは鮮明に記憶に残る。

2010年には回転ディスクで時刻を表示する「BR 01 レーダー」がブラックPVDのステンレス・スチール・ケースで登場した。その翌年にはディスクによる時刻表示を生かして航空機のレーダー・スクリーンのビーム表示を再現した、カーボン・ケースの「BR 01 レッドレーダー」を発表し、類をみない表示が話題を呼んだ。それから10年を経た今年にはレーダーの第3弾目となる「BR 03 レッドレーダーセラミック」がお目見えした。

「レーダー」の特徴であるディスク表示システムではセリタ製自動巻きのSWI300（前作はETA2892）をベースに、針に替わって超軽量かつ堅牢で安定性があるディスクをムーブメントに取り付けた。またディスク自体が文字盤の役割を担う。ディスクは針よりもはるかに重さがあるため、パワーリザーブと精度に影響を及ぼさないことが開発の課題だったという。

「BR 03 レッドレーダーセラミック」はモデル名にあるようにケースにブラックのセラミックを採用し、耐傷性も確保された。ところで製造はラ・ショー・ド・フォン（スイス）にあるシャネルのシャトラン工房で行われている。1997年にシャネルの資本協力を得たため、これはベル&ロスにとっては資金面のみならず開発・製造面でも大きなメリットである。そして文字盤上の表現や外装のカラーリングでいかに個性を表現するか、これがベラミッシュ氏が率いるクリエティブ・スタジオの腕の見せどころである。

日本市場で再び展開を開始したルイ・モネ

偉大な時計師へのオマージュを根底に我が道を歩む

アトリエ・ルイ・モネはスイス・ヌシャテル州のサンフレーズに2004年に時計業界出身のジャン・マリー・シャラー氏によって設立された。年産数百個程度の小規模ブランドだが、その背景には過去の時計師への敬意と、シャラー氏自身の創造への強い意欲がある。



1816年にルイ・モネが製造した毎時21万6000振動の「コンタール・ドゥ・ティエルス」。2012年にアトリエ・ルイ・モネ創業者のジャン・マリー・シャラー氏(左の写真)が落札し、ギネス世界記録によって2016年に世界初のクロノグラフ、2020年に世界初の高振動ストップ・ウォッチであることが認定された。

び、さらにスイス連邦政府の広告技術とマーケティング技術者の資格をトップの成績で取得。その後は大学で教鞭をとっていたが、時計の世界に飛び込んだ。

「最初の仕事は貿易会社のシイベル・ヘグナー(現DKSH)でした。当時はオメガを扱っていました。大グループによるブランドの獲得が始まりましたが、まだ我々にも可能性が残された頃でした。私はアジア地域でのダニエル・ロート・ブランドの立ち上げを担当しました。シイベル・ヘグナー時代のプロジェクトだったベルレの再興のために会社を辞め6年間ベルレに携わり、その後はラコステ・ウォッチに数年間勤めました」

ラコステ・ウォッチのマーケティングと経営委員会に籍を置き、売上を大幅に向上させた彼は、2000年にルイ・モネ・プロジェクトに着手した。しかしなぜ当時誰も知ることがない過去の時計師ルイ・モネに着目したのだろうか。

今年2月に株式会社GMインターナショナルはルイ・モネと販売代理店契約を結び、日本市場での新たな展開を開始した。アトリエ・ルイ・モネは創業から17年という若いブランドだが、「ユニーク、クリエティブ、エクスクルーシブ、アート&デザイン」をテーマに独創的な時計づくりを行っている。創業者のジャン・マリー・シャラー氏に書面でお話を伺った。

「私がルイ・モネを探したのではなく、ルイ・モネが私を見つけたのです。運命で

す。忘れられていたルイ・モネですが、ダニエル・ロート氏と共に東京に向かう機中で彼はこう言いました。君はいつか自分のブランドをもつと思う。それならルイ・モネに注目しなさい。君にぴったりだと思う」

ダニエル・ロート氏はブレゲの時計師だった時代にそのアーカイブを調べてルイ・モネの存在の重要性を知ったのだという。彼の言葉からシャラー氏はルイ・モネを調べ始めたものの、実際には8ページの伝記が残るだけだった。しかし2001年にはルイ・モネが1848年に出版した『時計学概論(Traité d'Horlogerie)』を手に入れた。そして2004年にアトリエ・ルイ・モネを設立し、10人に満たないチームで時計づくりを開始し、また時計師ルイ・モネの軌跡を探る作業を続けた。

2012年に大きな転機が訪れた。それがジュネーブで開催されたクリスティーズのオークションだった。

『時計学概論』に毎時21万6000振動の天体観測用時計について書かれています。私はこの時計を探し続けましたが、



2021年ブランド別新作情報 パート2

人生の良きパートナーとなる 時計との出会いを願って

4月にオンラインで開催された「ウォッチズ&ワンダーズ2021」の後も各社がさまざまなタイミングで新製品の発表を行っている。2019年までは年に1度の大規模な発表会で年間の新作を披露するのが常だったが、コロナ禍でその状況も変化した。そして多くのメーカーが発表とほぼ同時に発売する傾向にあり、これは消費者にとっては歓迎すべきことだろう。5月以降に発表された新作のなかから13ブランドの製品をみてみたい。さてあなたの心に響く時計はあるだろうか。



「特別追悼企画」時計ジャーナリスト瀧澤広の世界

時計への愛は 広く、深く、限りなく

小誌の第107号(2011年4月15日発行)から第148号(2021年7月15日発行)までの約10年間にわたりご寄稿いただきありがとうございました時計ジャーナリストの瀧澤広氏が本年5月27日に肺病のために急逝されました。享年67。今までの多大なご協力に感謝の意を表するとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

瀧澤広氏は自動車専門誌の編集部に所属しモーター・ジャーリストとして活躍

した後、1997年に『インターナショナル・リスト・ウォッチ』誌(二玄社刊)の編集長に就任しました。取材の軸足をクルマから時計に移すと、まずヒコ・みづのジュエリーカレッジの夜間のウォッチメーカー・コースに通い、2000年に2級、2005年には1級時計修理技能士の資格を取得。それは「バラして機構を理解せずに時計を書くべきではない」という、自身が正しく理解し、伝えることを責務とするジャーナリスト魂の表れでした。

しかし多くの時計に触れることができ、時計専門誌の編集部は、同氏にとって楽園でもあったはず。なぜなら根っからの時計好き。小学校の入学祝いのミッキーマウス・ウォッチにはじまり、高校生の頃にはアラーム・ウォッチを愛用し、クルマの取材でロサンゼルスやロンドンを訪れると必ずアンティーク・ウォッチ・ショップを覗いてお気に入りを探し、そして四六時中(寝るときもお風呂でも)腕には必ず時計がある、という時

計愛好家でした。

2005年に1級時計修理技能士試験に合格した後の初夏に無症候性心筋梗塞を発症して入院し、その後もバイパス手術等で複数回の入院を経験したものの、退院すれば精力的に国内外を取材で動き回り、興味の対象は電波時計からグラブソスリまでと実に多岐にわたりました。そして息をひきとる数時間前まで小誌の前号に掲載した記事の文字校正に取り組み、責任を全うした後の旅立ちでした。

「疑う、調べる、試してみる」を基本に、生半可な知識を嫌い、正しいことを追究する筋金入りのジャーナリストであり、大好きな時計やヒストリック・カー、靴とことん楽しむ趣味人でもありました。今号と次号の2回にわたってバックナンバーから瀧澤氏の記事の一部を再録し、また二玄社のご協力を得て『インターナショナル・リスト・ウォッチ』誌に掲載されましたコラム「LAP TIME」の一部を転載し、時計をこよなく愛したひとりのジャーナリストの世界を改めて読者諸氏にお伝えしたいと思います。(香山知子)



2019年6月19日にRJが主催した「アロー・スペース・コレクション」の発表会で、日本人初の女性宇宙飛行士であり、現在は東京理科大学特任副学長の向井千秋さんと写真に納まった瀧澤広氏。このときの質問は「宇宙飛行でオメガ・スピードマスター以外に持って行った時計はありますか」。その答は次号の当企画第2部に掲載するスピードマスターの記事をご覧ください。

(写真提供/オールージュ)

2021年 ブランド別新作情報パート3 「ジュネーブ・ウォッチ・デイズ」／その他

8月30日から9月3日までブライトリング、ブルガリ、H・モーザー、ユリス・ナルダン、ジラルール・ペルゴなどが参加して「ジュネーブ・ウォッチ・デイズ」が開催されました。また今夏以降にも各社が新作を発表し、コロナ禍でも時計業界は変わることなく前に進んでいます。

前号と今号に続く第3弾として各ブランドの新作の概要を取り上げます。

【特別追悼企画】続・時計ジャーナリスト瀧澤広の世界

時計への愛は広く、深く、限りなく

今号に次ぐ瀧澤広氏の追悼企画として、小誌のバックナンバーから「クルマとのコラボレーション・モデル」、「電波時計」、「オメガ・スピードマスター」に関する記事を再録します。

「世界の腕時計」第150号は2021年12月8日発売予定です。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします！

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,704円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

- フリーダイヤル 富士山 富士山
- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
 - インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoutedokei>
 - 携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoutedokei>
 - QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト: <http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

ワールドフォトプレス総合サイト <https://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1254

世界の腕時計

No.149

令和3年10月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部…………… ☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…………… ☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部…………… ☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所…………… 大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。